

買い物から広がる

ささねあいのわ

京都市地域
支え合い活動
創出事業



地域支え合い活動創出コーディネーター
社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課



京都市
CITY OF KYOTO

暮らしを支え合う仕組みを一緒に作りませんか？ ～買い物支援から考える私たちの暮らし～

高齢化の進展とともに、2025年には市民の5人に1人が後期高齢者になるといわれており、日常生活の中で不自由を感じる高齢者を、みんなで支え合う仕組みや活動が求められています。

とりわけ、買い物をしたり、荷物を持ち運ぶことに関する困りごとは、地域の住民と民間事業者・商店街等の多様な協力が共に取り組んでいくことが解決の糸口となります。また、地理的な条件や身体的な状態が左右する「買い物」は、子育て家庭や障害のある方も含めた地域全体の課題でもあります。

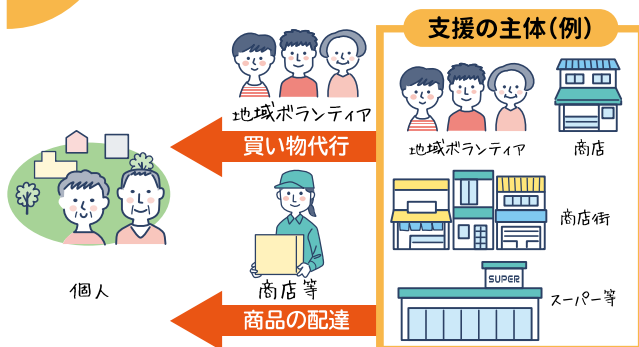
そこで、本冊子では、地域課題として買い物支援に取り組む市内の実践事例を集めました。どの事例も、買い物の困りごとを解決しようとする人々が集まり、つながり、知恵を出し合いながらつくられた取組です。地域支え合い活動創出コーディネーターも様々な形で関わっています。ぜひ参考としていただいて、買い物の支援の輪を広げるとともに、暮らしを支え合う仕組みを一緒に作る契機となれば幸いです。



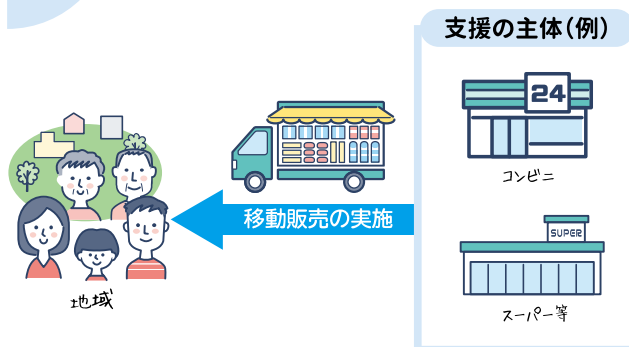
買い物支援といってもいろいろ。 みんなで協力できる4つのパターンと事例を紹介！

※取組内容が掲載時点から変更されている場合がありますのでご注意ください。

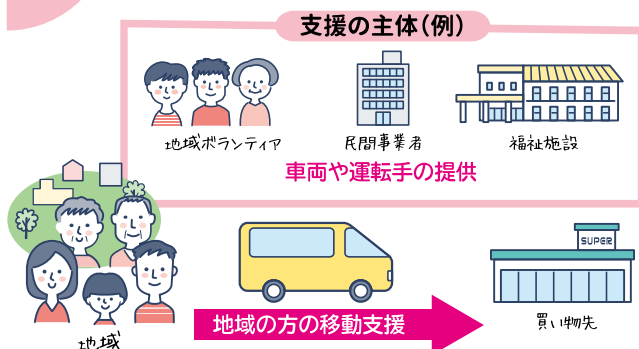
その1 配達支援 ▶3ページ



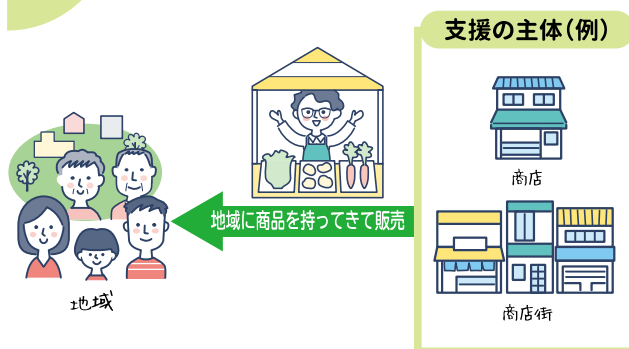
その2 移動販売 ▶4・5ページ



その3 送迎運行 ▶6ページ



その4 マルシェ(臨時店舗) ▶7ページ





配達支援

伏見区

深草商店街振興組合



(上) 深草社協、小学校の協力により実現! (左下)「おでかけベンチ」は憩いの場所。設置場所マップも掲示(右下) 京都大学吉田研究室、NPO竹と緑、深草・竹やすらぎの会が、ベンチ・リヤカーデザイン・制作、ルート検討、高齢者の買い物状況の調査・分析等で支援しています。

～買い物とともに、コミュニケーションを楽しめる場に～

●きっかけは高齢者の声

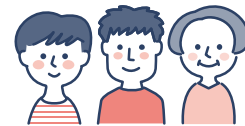
「なじみの商店街で買い物するのは楽しいけど、足腰が弱ってきて出向くのが大変」。そんな高齢のご夫妻の声を受け止めた深草商店街振興組合は、高齢者にやさしい買い物支援に取り組んでいます。

●おでかけベンチの設置

「重い物をもって、長い距離を歩けない」との声から生まれたのは、深草の竹を活用したおでかけベンチ。高齢者はもちろん、体の不自由な方、親子連れなど、買い物の合間に気軽に一息つけるだけでなく、交流が生まれる憩いの場にもなっています。

●ふかくさおとどけ便

さらに「配達してくれたら嬉しい」との声には、商店街に隣接する小学校前で「配達サービス付き土曜朝市」を開催。朝市で買って持ち帰れない荷物は京都市立京都奏和高等学校の学生ボランティアが「竹リヤカー」に積んで、購入者宅最寄りの「おでかけベンチ」に配達する取組を始めています。



竹製屋根付き
リヤカーで出発



「おでかけベンチ」
設置箇所まで商品
をお届け!

～高齢者にやさしい商店街を 目指してお届け!～

●高齢者にやさしい商店街サービス情報を発信

京都三条会商店街では、多くの店舗が行っている配達の情報を集約し「高齢者にやさしい商店街サービスお届け版」を作成しています。高齢サポート（地域包括支援センター）や居宅介護支援事業所等を通して高齢者に配布しています。

惣菜店の店主は、「普段来られる方の大半は常連のお客様。なかには、身体が弱くなって行けなくなったとの声も聞く。それぞれの状況に応じた要望になるべく応えたい」と積極的に取り組まれています。

●高齢者に関わる専門職との連携

定期的に「あんしんしてお買い物しようデー」や「ウォークラリー」等のイベントを開催しています。高齢になっても住み慣れた場所で暮らしてもらえるよう、商店街は高齢者に関わる専門職とつながり、地域での暮らしを支える取組を進めています。



購入した商品
をお届け!



配達に向けて店舗を出発!



配達支援

中京区

京都三条会商店街



▲「配達します」看板。

◀「高齢者にやさしい商店街サービスお届け版」は文字が大きくて見やすいと好評。地域支援合い活動創出コーディネーターが協力して作成。



「買い物の楽しみ」×「交流の場づくり」 「高齢者の変化に気づく見守り」の実現！



移動販売①

東山区・西京区

移動販売車に集まった方同士が交わす「元気?」「最近〇〇さん見かけへんなぁ」。お互いの顔が見えるからこそ生まれる交流が、買い物と地域の居場所の二つの機能を持ち合わせる場所へと発展しています。

東山区は高齢化率が市内で最も高い地域です。個人商店の廃業が増えて、急な坂道が多く、「買い物に困っている」との声が多くあがっていました。地域の課題を話し合う地域ケア会議で“買い物困難者”が話題となり、民間事業者の参画を経て移動販売の試行実施が始まり、2018年からは本格実施が実現しました。

●地域みんなの関わりで

移動販売車は、週1回、学区内8カ所を巡って食材や日用品を販売。車には、野菜・果物・魚・肉・牛乳・卵・日用品などの商品が載っています。遠出が難しい高齢者だけでなく、ベビーカーの親子連れなどが集まります。



利用客にとっては、買いたい商品を実際に見て買う楽しみがあります。また、ボランティアとして地



地域の住民さんに自宅駐車場を提供いただき駐車場所に。安心して楽しく買い物ができます。

域住民や学生が荷物を運ぶのをお手伝いしてくれるので「持ち帰りが助かる」「お話もできるので楽しい」との声も。移動販売車の駐車スペースは、地域住民や大学の所有地を借りることができ、地域みんなの関わりで実施しています。

●創り手、担い手の声

当初から中心的な役割を担う民生児童委員協議会の会長さんは、「今では当たり前のように販売車が音楽を鳴らして地域にやってくる。利用客の喜ぶ姿や声を聞くと活動の励みとなる」と話されます。

移動販売の担当者は「販売車を待ってい

た人から“ありがとう”の言葉をいただくと、これからも地域の役に立ちたい」との地域貢献への思いを話されていました。



ちょっと
教えて

地域支え合い活動創出コーディネーターって、みんなことをするの? ～東山区での関わりから～

①

声をキャッチ



②

みんなで話し合う場をつくる!



アンケート調査を実施!

③

お試し実施



④

みんなで振り返り!

⑤

本格実施に向けて



みんなで支え合いの仕組みを考える場をサポートすることがコーディネーターの仕事です!



たくさん並べられた商品をゆっくり見ながら買い物ができます。



販売員さんは「人と話すことが楽しい!買い物に来てくれた皆さんと話しながら、生活の役に立っていることを実感しています」とコミュニケーションを大切にしていることを教えてくださいました



移動販売②

北区・左京区・右京区

山間地域では「運転が不安。でも免許を返納したら買い物にいけない」という切実な声があります。年齢を重ねるとともに日常生活の大きな不安の1つとなるのが買い物です。その不安に応えるため移動販売車が高齢者の生活を支えています。移動販売は、買い物はもちろんのこと、ご近所の皆さんが集って販売員さんも輪に入った「会話が生まれる交流の場」づくりに一役買っています。

また、お互いに定期的に顔を合わせる場となり「今日はあの方みてないけど」「〇〇さん元気かな?」と変化に気づき合う場面もあります。

店舗ほど商品を並べることができませんが、販売員さんは、商品を積むときに「〇〇さんの好みそうな商品だな」と思い浮かべながら選んでいます。

地域と民間事業者がつながり福祉のまちづくりを

買い物に困っている住民の皆さんに商品をお届けする「移動販売」。「地域に貢献したい」という事業者の思いは、さりげない見守りという福祉的な効果を生み出しています。地域支え合い活動創出コーディネーターは民間の事業者をはじめ福祉のまちづくりを目指す方々との連携を目指します。



販売員さんは、地域の民生児童委員さんから「最近あの方お変わりない?」と聞かれることも。「何か異変に気づいたら高齢者に関わる相談窓口ご連絡を入れます」と見守りの一員としての心強い言葉を聞かせてくださいました



送迎運行

右京区
水尾学区・宕陰学区
×
清和園
愛宕ゆうこうの郷

左京区
大原地域
×
京都大原記念病院

「手に取って、 商品を選ぶ喜びを応援！」

～施設の送迎車による高齢者の買い物・外出支援～

●福祉施設の協力で「あったらいいね！」を実現

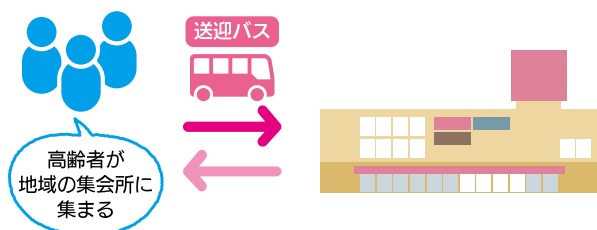
右京区の山間部に位置する水尾学区や宕陰学区では、高齢者の暮らしを支える生活支援アンケート調査を実施。その結果をみながら「地域でできること」について、学区社会福祉協議会、民生児童委員、老人福祉員、関係施設・機関等で話し合いを重ねました。

そして社会福祉法人清和園愛宕ゆうこうの郷の協力を得て、最寄りのスーパーまで送迎する取組を開始しました。

移動する車内はまるで「みんなの居場所」。今の時期に植える野菜の話や、ちょっとした情報交換の場として大盛り上がりします。参加者からは、「普段は宅配もあり、不自由は感じないけれど、手に取って商品を選ぶことが楽しい！」と喜ばれています。

また施設の地域貢献の一つとして取り組む施設長は「車内で楽しく過ごされる様子を見ると、私たち職員も元気をもらえます」と話されており、職員のやりがいにもつながっているようです。

■水尾学区や宕陰学区の場合



大原社協の方がバスの乗降をサポート

シャトルバスでの買い物を楽しみにされています



車内ではとても楽しくお話をされています！

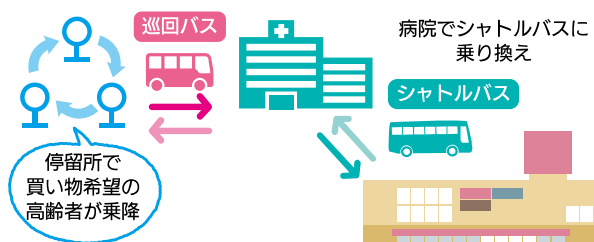
●住民が利用しやすい仕組み

左京区の大原地域では、大原自治連合会と大原地域社会福祉協議会（大原社協）が主体となり、京都大原記念病院のシャトルバスを利用した、大原買い物事業を実施されています。

この取組は、買い物希望の高齢者を、病院の巡回バスで最寄りの停留所までお迎えに行き、一旦病院で市内を巡回するシャトルバスに乗り換えて、大型商業施設まで送迎しています。事前にチラシなどで参加者を募集し、当日は大原社協の方がバスの乗降等に不安がある方のサポートをしています。

送迎運行を担う病院の担当者は、「移動を支えることで、少しでも地域の高齢者の暮らしの支えになれば」と話されており、地域の活動者が送迎から買い物までのすべてをお手伝いすることは難しいですが、施設と連携することで、高齢者の外出の機会がつけられています。

■大原地域の場合



ちょっと教えて



2つの事例のポイントは、地域のニーズ把握と関係者同士の協力。
地域支え合い活動創出コーディネーターは地域住民と施設をつなぐ機能を発揮して、皆さんとともにサービスの創出を目指します。



マルシェ
(臨時店舗)

身近な地域にお店がやってくる！ マルシェが生みだす 外出意欲の向上と助け合い

●コミュニティカフェほっこり●

「ほっこりマルシェ」

(南区)



買い物客でにぎわう「ほっこりマルシェ」

NPO法人東九条地域活性化センターが運営する地域の居場所「コミュニティカフェほっこり」が、「コロナ禍でも何か出来ることはないだろうか？」と考え、高齢者の買い物支援として「ほっこりマルシェ」を開催。

●マルシェの取組を通してさらなる助け合いへ

コミュニティカフェほっこりにて、毎週末15時から開催。農家さんの新鮮な野菜やパン、総菜等に加えて、近隣の障害者就労継続支援事業所ともタイアップし障害のある方が作製した商品の販売も行っています。また在日フィリピン人女性や子どもへの支援活動として「フィリピンマルシェ」も開催されており、「この地域にとって必要な

ものを！」との思いで取り組まれています。

買い物に来ていた女性は「近所のスーパーが閉店し、買い物に不便していた。コロナ禍だし、家の近くで買い物できるのがいい」と話されていました。今後も「ほっこりマルシェ」やコミュニティカフェの取組等を通して、地域住民のちょっとした困りごとを助け合えるまちづくりを目指されています。



●京都市やましな学園×フリースペースたけはな●

～就労継続支援事業所の野菜販売と居場所活動との相乗効果～

(山科区)



「いらっしゃいませ！」と元気な声でよびかけ

障害のある方と地域住民が、お互いに顔の見える地域をつくることを目的とした新鮮野菜「朝市」を、就労継続支援事業所京都市やましな学園が開催。事業所に通う障害のある方が毎週火曜日の10時から、山科合同福祉センターの入り口前で野菜販売を行っています。

また、新鮮野菜「朝市」の近くには、隔週火曜日に開設している「フリースペースたけはな」があります。これは、山科区地域福祉推進委員会が、福祉関係者や地域の方々と協働で「誰もがゆとりほっこりできる居場所」として開設しているもので、子どもから高齢者、障害のある方も、みんなが気軽に集える場になっています。

●自分らしさを表現し、誰もが輝く地域に

当日は近隣住民をはじめ、フリースペースの参加者、障害者施設の利用者等でにぎわいます。「今日はどんな野菜が売っているかな」「ここのトマトが一番おいしい」「朝市でみんなとお話できることがとても楽しい」等の声をいただき、障害のある方の「朝市」の取組が、「フリースペースたけはな」等とつながりながら、住民との自然な交流が生まれ、支え合いの輪が広がっています。

「お寺×マルシェ」地域とお寺の新しいつながり

～お寺を舞台にマルシェができる?!～

佛光寺さんの野菜市(下京区)



佛光寺は昔から地域の人がつながる中心にありました。そんな佛光寺で毎月14日の11時ごろから開催されている「佛光寺さんの野菜市」は、買い物を通して会話を楽しみ、地域と人がつながる出会いの場となっています。地域の誰でも受け入れてくれるお寺だからこそ、人が自然と集まり、温かい雰囲気の中で野菜市を開催できるのではないのでしょうか。



新しいつながり
マルシェ

「銭湯×マルシェ」

～ここ、長者湯からはじまる地域とのつながり～

長者湯「軒先マルシェ」(上京区)



無農薬・無肥料の新鮮な野菜が並び、宝探し感覚で楽しめそう

毎週水曜日の15時から開催されているのは、長者湯の軒先に新鮮な野菜や花が並ぶ「軒先マルシェ」。古くから地域住民の癒やし・憩いの場である長者湯が「軒先マルシェ」を中心とした、自然な形で住民同士の顔の見える関係づくりに一役買っています。新旧住民の交流の機会も長者湯「軒先マルシェ」にあります。

地域の支え合い活動に参加しませんか？ 気軽にご相談ください！



地域支え合い活動創出コーディネーター お問い合わせ先



担 当	配置場所	電話番号	FAX 番号
北 区 コーディネーター	北区社会福祉協議会 〒603-8143 北区小山上総町 3	441-1900	441-8941
上京区 コーディネーター	上京区社会福祉協議会 〒602-8511 上京区今出川通室町西入掘出シ町 285 上京区総合庁舎 2 階	432-9535	432-9536
左京区 コーディネーター	左京区社会福祉協議会 〒606-8103 左京区高野西開町 5 京都市左京合同福祉センター内	723-5666	723-5665
中京区 コーディネーター	中京区社会福祉協議会 〒604-8316 中京区大宮通御池下る三坊大宮町 121-2	822-1011	822-1829
東山区 コーディネーター	東山区社会福祉協議会 〒605-0863 東山区五条通大和大路東入 5 丁目梅林町 576-5 「やすらぎ・ふれあい館」内	551-4849	551-4858
山科区 コーディネーター	山科区社会福祉協議会 〒607-8344 山科区西野大手先町 2-1	593-1294	594-0294
下京区 コーディネーター	下京区社会福祉協議会 〒600-8166 下京区花屋町通室町西入乾町 292 下京総合福祉センター内	361-1881	361-1663
南 区 コーディネーター	南区社会福祉協議会 〒601-8321 南区吉祥院西定成町 32 京都市南老人福祉センター内	671-1589	671-3840
右京区 コーディネーター	右京区社会福祉協議会 〒616-8511 右京区太秦下刑部町 12 右京区総合庁舎 5 階	865-8567	865-8569
西京区(洛西含む) コーディネーター	西京区社会福祉協議会 〒615-8156 西京区榎原百々ヶ池 31-18 西京ふれあい地域福祉センター内	394-5711	394-5712
伏見区(本所・深草) コーディネーター	伏見区社会福祉協議会 〒612-8318 伏見区紙子屋町 544 京都市伏見社会福祉総合センター内	603-1287	603-4532
伏見区(醍醐) コーディネーター	伏見区社会福祉協議会 醍醐分室 〒601-1375 伏見区醍醐高畑町 30-1 京都市醍醐老人福祉センター内	575-2070	573-8314

受付時間：9時～17時（土・日・祝日のぞく）



京都市地域支え合い活動創出事業

京都市では、平成28年5月から京都市社会福祉協議会に事業を委託し、「地域支え合い活動創出コーディネーター」の配置や「地域支え合い活動調整会議」の開催を通じて、地域の住民団体、ボランティア団体や民間企業等の多様な

主体が生活支援サービスを提供することで多様な生活支援ニーズに応える体制づくりを進めています。
※地域支え合い活動創出コーディネーター・地域で高齢者を支えていくために必要な生活支援サービスの創出や担い手の養成、ネットワークの構築を目的として、各区社会福祉協議会に配置しています。

ささえあいのわのデータ版はこちら▶▶▶



京都市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



発行者/地域支え合い活動創出コーディネーター
社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
京都市保健福祉局健康長寿のまち・京都推進室健康長寿企画課
発行/令和4年3月
京都市印刷物 第035020号